

国立病院機構熊本医療センター

2016 No.223



発行所
国立病院機構熊本医療センター
〒860-0008
熊本市中央区二の丸1番5号
TEL (096)353-6501(代)
FAX (096)325-2519

くまびょうNEWS

新年の御挨拶



国立病院機構
熊本医療センター
院長 河野 文夫

熊本市江津湖からの日の出

新年明けましておめでとうございます。今年は、熊本第一陸軍病院が、厚生省に移管され、国立熊本病院となりましてから70年目、更に国立病院機構となりまして11年目に当たります。そして、昨年4月より、我々職員は、国立大学と同様に非公務員となりました。また、早いもので、私が院長になりまして4年が経過しようとしています。この間、当院がなんとか無事に過ごすことができましたのは、ひとえに開放型病院の先生方の多方面にわたるご指導、ご支援の賜物でございまして深く感謝申し上げます。

世間ではアベノミクス効果で、日本経済はやや上向き、大企業の景気のいい話が報道されています。しかし、庶民にはまだその恩恵が届いていないようです。一方、国際的には、ISによるテロが多発し、世界中が非常に不安定な状況となりました。

さて、昨年は、病床機能報告制度が始まり、地域医療構想策定に向けた協議会が開始され、さらに本年は、マイナス改定が予想される診療報酬改定が控えています。これに消費税の問題もあり、今年も我々医療界にとりましては厳しい現実に対峙しなければならないようです。

当院では、昨年4月より4人体制で立ち上げました腫瘍内科（境健爾部長）が、化学療法、緩和医療を充実させ、がん専門看護師などとのチーム医療により多数の相談にも丁寧に対応できるようになりました。また、長年にわたり当院に貢献され、菊池郡市医師会立病院副院長に転出されました豊永哲至先生の後任として、昨年10月からは、熊本大学医学部代謝内科学特任教授の西川武志先生が糖尿病・内分泌科部長に就任されました。西川先生は、これまでの輝かしい臨床研究の実績を生かして、開放型病院の先生方の診療に必ず貢献されると思いますのでよろしくお願ひします。

当院の方針は、今までと変わることなく、急性期医療に全力を挙げ、365日、24時間どんな患者さんでも救急医療を断らないをモットーとし、地域医療連携の一翼を担い、地域の皆様方のお役に立ちたいと思っております。

本年度が、先生方にとりまして実り多い1年となりますことをご祈念申し上げますとともに、本年度もどうぞよろしくご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2016年元旦

基本理念

最新の知識・医療技術と礼節をもって、
良質で安全な医療を目指します。

運営方針

1. 良質で安全な医療の提供
2. 政策医療の推進
3. 医療連携と救急医療の推進
4. 教育・研修・臨床研究の推進
5. 国際医療協力の推進
6. 健全経営

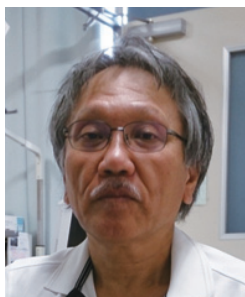
患者様の権利

1. 良質かつ適切な医療を公平にうける権利があります
2. ご自身の医療について理解しやすい言葉と方法で十分な説明と情報を受ける権利があります
3. 病院から説明と情報を得た上で、自らの意志で治療を受け、あるいは選択し、拒否する権利があります
4. 自分の診療記録の開示を求める権利があります
5. セカンド・オピニオンを求める権利があります
6. 個人としての人格の尊重とプライバシーの保護を受ける権利があります



「大橋通クリニック」

大橋通クリニック 院長 菅村 充晃



我が大橋通クリニックは2003年、菅村外科整形外科病院の閉院に伴い、実弟（担当は整形外科）と私（主に消化器外科）の2人体制で山鹿市の菊池川に架かる山鹿大橋の際に開院した有床診療所です。

本院のモットーは地域に密着した、24時間体制、年中無休の医療を提供する敷居の高くない、かかり

つけ医が常駐するクリニックです。そう言うクリニックですので、外来診療、病棟、さらに訪問診療、往診など毎日、毎日が多忙でその結果、疾患も多岐にわたり時として病態の把握に苦しむことも枚挙に遑がありません。そんな時には同僚や山鹿市の中核病院である山鹿市民医療センター先生方にアドバイスを頂くことになるのですがそれでも、急を要する疾患に遭遇した時にはどうしても国立熊本医療センターの先生方に頼らざるを得なくなるのです。

幸いにして今まで、一度たりとも紹介を断られたことはなく大変、大変感謝しております。

開業医は時として孤独です。患者さんに対する義務と責任に押しつぶされそうになり気分が落ち込むことも多々あります。毎日の多忙なる診療の中であって日々流されていく自分を感じます。活気のある、前向きの自分に戻ろうと思うのですがなかなか気力がついていきません。そんな中であって患者さんからの何気ない言葉（先生の顔を見ただけで気分がよくなった。）に何と勇気づけられることか、その感激を感じる間は一人の町医者として頑張りたいと思います。

最後は何かぼやきのようになり、大変失礼しました。

地域医療連携室直通電話をご利用下さい

先生方には日頃より患者様の御紹介を頂きありがとうございます。

この度、代表電話からの地域医療連携室へのお電話が繋がりにくいとのことご指摘を受け、直通電話を設置する運びとなりました。

この直通電話は、関係医療機関の皆様から頂くお電話のみをお受け致します。患者様からの直接のご相談は、これまでどおり代表電話を通じて承る予定です。

医療機関の皆様のための直通電話になります。ホームページ等では公表いたしておりませんので、ご了承下さい。

今後ともよろしくお願い申し上げます。

地域医療連携室直通電話

096-353-6693

月～金（祝日を除く）AM 8：30～PM17：00

地域医療連携室長 清川哲志



職場紹介

栄養管理室



“縁の下の力持ち”で頑張っています



若き人材と経験豊富なスタッフが揃っております

栄養管理室は、管理栄養士10名（職員7名、非常勤3名）、調理師6名と委託職員25名（栄養士・調理師・調理員）の総勢41名のメンバーで、1日1,300～1,400食の食事を提供しています。毎朝のミーティングでの献立確認や月1回委託を含めた勉強会を通して、より協力体制を深め、安心して安全な食事の提供を目指して日々励んでいます。

食事では、患者様の入院生活の楽しみのひとつとなるように、行事食や季節の御膳、特別メニューを提供し、週1回栄養士と調理師による病棟訪問を行い患者様のご意見等も参考にしています。また、入院・外来患者様を対象に、各疾患における栄養相談や人間ドックの食事診断、多職種協同で糖尿病教室・肝臓病教室を行っています。

NSTをはじめ、褥瘡対策チーム・摂食嚥下チーム・緩和ケアチームなどチーム医療にも参画し、スタッフ連携を通して患者様の栄養改善に向けて取り組んでいます。

熊本医療センター糖尿病患者の会（ぎんなん会）の支援を行っており、年に1回～2回小旅行や季節の糖尿病教室での食事会、ウォークラリー等イベントを通して情報交換も行い交流を深めています。

今後も明るく働きやすい職場環境に努め、患者様に喜んで頂ける食事を提供していきたいと思ひます。

（栄養管理室長 松永直子）



人間ドック指導風景



1年を通して調理室内温度25℃以下湿度50%以下で保たれています



一度に大量調理が可能です



配膳終了後、日々の清掃に徹底します



糖尿病教室風景



マイナスイオンをたくさん浴びました



有田陶器市に行ってきました



栄養管理室スタッフの休日の一部をご紹介します



42.195km完走しました!!



2016
診療科紹介 (89)
救命救急センター



**副院長・救命救急部長
集中治療部長・救命救急センター長
高橋 毅 (たかはし たけし)**
救命救急、集中治療

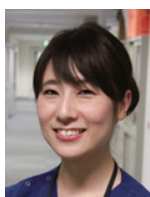
日本救急医学会・専門医・指導医・評議員・ICLS委員会、日本集中治療医学会・専門医・評議員、日本臨床救急医学会・評議員・編集委員会、日本内科学会・認定医・総合内科専門医・指導医、日本糖尿病学会・専門医・指導医・評議員、日本動脈硬化学会・専門医・評議員、日本蘇生学会・指導医・評議員、日本循環器学会・専門医、日本高気圧環境医学会・専門医、日本航空医療学会・評議員、日本病院前救急診療医学会・評議員、日本医療マネジメント学会・評議員、熊本大学大学院医学教育部客員准教授、熊本大学医学部臨床教授、インフェクションコントロールドクター、日本救急医学会認定ICLSWSディレクター、日本内科学会JMECCインストラクター、統括DMAT隊員、医学博士



**麻酔科部長・ICU責任医師
瀧 賢一郎 (たき けんいちろう)**
集中治療、麻酔
日本麻酔科学会専門医・指導医



**医長・副救命救急センター長
救命救急病棟責任医師
原田 正公 (はらだ まさひろ)**
救命救急、集中治療
日本救急医学会・専門医・指導医、日本集中治療医学会・専門医、日本内科学会・認定医、日本蘇生学会・指導医・評議員、日本高気圧環境医学会・専門医、日本病院前救急診療医学会評議員、日本救急医学会認定ICLSディレクター、日本内科学会JMECCインストラクター、統括DMAT(NBC)隊員、フライトドクター



**医長
橋本 章子 (はしもと しょうこ)**
救命救急、代謝内分泌
日本内科学会・認定医、日本医師会認定産業医、医学博士



**医長
橋本 聡 (はしもと さとし)**
救命救急、精神神経
日本救急医学会・専門医、日本精神神経学会・専門医・指導医、精神保健指定医



**医長・救命救急病棟副責任医師
北田 真己 (きただ まき)**
救命救急・集中治療

日本救急医学会専門医、日本高気圧環境医学会・専門医、日本救急医学会認定ICLSディレクター、DMAT(NBC)隊員、フライトドクター



**医長・ICU副責任医師
櫻井 聖大 (さくらい としひろ)**
救命救急、集中治療

日本救急医学会専門医、日本集中治療医学会専門医、日本救急医学会認定ICLSディレクター、フライトドクター



**医長・ヘリ救急主任
山田 周 (やまだ しゅう)**
救命救急、集中治療

日本救急医学会専門医、日本蘇生学会指導医、日本救急医学会認定ICLSインストラクター、日本DMAT隊員、フライトドクター、インフェクションコントロールドクター



**医長
木村 文彦 (きむら ふみひこ)**
救命救急、航空医療

日本救急医学会専門医・指導医、日本熱傷学会専門医、日本航空医療学会航空医療医師指導者、日本病院前救急診療医学会評議員、インフェクションコントロールドクター、JATECインストラクター、フライトドクター、医学博士



**医師
狩野 亘平 (かりの こうへい)**
救命救急、集中治療
日本救急医学会専門医



**医師
江良 正 (えら ただし)**
救命救急、集中治療
日本救急医学会専門医、フライトドクター



**医師
山下 幾太郎 (やました いくたろう)**
救命救急、集中治療、内科

診療内容と特色

当院の救命救急センターは、1968年7月に開設された救急医療センターを前身とし、2003年8月に30床(内ICU6床)として認可を受けました。2005年7月には病床数を40床に増床し、新病院(現病院)への移転に合わせて2009年10月に現在の50床になりました。

当センターは日本救急医学会救急科専門医指定施設、日本集中治療医学会集中治療専門医研修施設、日本高気圧環境潜水医学会認定病院、日本熱傷学会専門医認

定研修施設、日本航空医療学会認定指定施設の学会施設認定を受けておりますが、2016年1月からは県内初の日本救急医学会救急科指導医指定施設に認定されました。

その他、行政からは地域災害医療センター（災害拠点病院）、熊本県地域救急医療体制支援病院の指定を受けております。

当救命救急センターでは「全職員をあげて24時間365日体制で断らない救命救急医療」を基本理念に掲げ、病院全体で救急医療に取り組んでおります。救急外来では救命救急部医師や各診療科当番医を中心に救急患者の初期診療を行います。入院が必要な患者様は、適切な診療科へのバトンタッチを行い、入院治療を行います。心停止、脳卒中、重症外傷、急性中毒、各種ショック、敗血症、多臓器不全などの特に重症な患者様は救命救急センターやICUで集学的治療を行います。ある程度安定した状態になられた患者様は一般病棟に転棟し、退院や転院までの治療を継続します。

救命救急・集中治療部（救急科）では、心停止後症候群、急性中毒、敗血症、重症呼吸不全、多臓器不全、多発外傷などの集学的治療を要する患者、複数診療科にまたがる内因性疾患患者などの入院診療を行っております。

当救命救急センターでは救急救命士の研修も多く受け入れております。救急救命研修所、熊本総合医療リハビリテーション学院の病院実習、熊本市消防局、菊池広域連合消防本部、山鹿植木広域連合消防本部、熊本県防災消防航空隊などの県内消防本部の病院実習を受け入れております。

ご案内

【ドクターカー】2014年度より病院救急車2台更新し、3台保有となりました。1号車および2号車は通常救急車タイプの車両で、3号車は大型の車両です。1号車は重症患者様の搬送に対応しており、重症患者様の搬送やドクターカーとして運用しております。2号車は中等症以下の患者様の搬送に対応しており、通常の患者搬送車として運用しております。3号車は複数人員の搬送に対応しており、災害時の医療班・傷病者の搬送、資器材の搬送を行うための災害医療支援車として運用しております。

【熊本型ヘリ救急搬送体制】2012年より熊本県ドクターヘリが運航開始となりましたが、熊本県では防災ヘリ「ひばり」とドクターヘリが役割分担をしてヘリを運用する「熊本型ヘリ救急搬送体制」をとっております。この中で、当院は防災ヘリの基幹病院として熊本県防災消防航空隊と連携しております。ドクターヘリが対応できないときには、当院のフライトドクターが防災ヘリに搭乗し現場に向かい、早期医療介入を行います。また、地域の病院に収容された重症な患者様が当院にヘリコプターで転院される場合にも、当院のフライトドクターが防災ヘリに搭乗し、患者様の搬送を行います。

救命救急センター外来患者内訳（2014年4月～2015年3月）

総救急患者受入数	18,546名（6,774名が入院）
救急搬送自動車による総受入人数	8,767名
公的救急車搬送受入数	8,006名（4,108名が入院）
病院救急車搬送受入数	759台
モービルCCU搬送受入数	2名
ヘリコプター搬送受入数	148名
他院よりの転院搬送受入数	4,353名
交通事故搬送受入数	568名

救命救急センター入院患者内訳（2014年4月～2015年3月）

疾患群	人数
病院外心停止	124
重症急性冠症候群	206
重症大動脈疾患	68
重症脳血管障害	553
重症外傷	231
重症熱傷	10
重症急性中毒	204
重症消化管出血	242
重症敗血症	122
重症体温異常	25
特殊感染症	94
重症呼吸不全	400
重症急性心不全	169
重症出血性ショック	9
重症意識障害	228
重篤な肝不全	23
重篤な腎不全	116
その他の重症病態	7
計	2,831

す。また当院は熊本県地域救急医療体制支援病院に指定されており、転院の受け入れが困難な重症患者様の搬送の調整も行います。

【救急医療トレーニングセンター】2012年より救急医療トレーニングセンターを立ち上げました。高機能シミュレータ5体、心臓・腹部超音波検査、腹腔鏡、内視鏡、脳血管撮影のバーチャルシミュレータ、末梢静脈路確保、中心静脈路確保、腰椎穿刺のシミュレータなどをそろえており、院内や地域の医療スタッフのためのスキルトレーニング、チームトレーニングなどを行っております。尚、現在計画中の新棟が完成に合わせて、専用のトレーニングラボが開設される予定となっております。

【集中治療】当院は病院全体で救急医療に取り組んでおりますが、当院の救命救急・集中治療部（救急科）での入院診療においては、主に内因性疾患の集学的治療に力を入れて診療を行っております。低酸素性脳症に対する脳低温治療、重症敗血症、重症呼吸不全、急性中毒、多臓器不全、多発外傷患者の全身管理などを多く診療しております。最新のモニタリングシステム、治療デバイスを駆使して質の高い救命救急・集中治療を提供いたします。

第21回 国立病院機構熊本医療センター医学会プログラム

平成28年 1月16日 (土)

開会の辞

8:50~9:00

一般演題 I 「内科系部門」

9:00~10:20

I-1 臍帯血移植直後、背部の圧痛を契機にみつかった真菌性肺炎を合併した一例

血液内科

坂本 淳 渡辺美穂 河北敏郎 平野太一 山口俊一郎
井上佳子 榮 達智 原田奈穂子 日高道弘 清川哲志
河野文夫

I-2 初診時にEvans症候群を呈した2症例

血液内科

加藤梨佳子 平野太一 渡辺美穂 山口俊一郎 河北敏郎
井上佳子 榮 達智 原田奈穂子 日高道弘 清川哲志
河野文夫

I-3 若年性ネフロン癆の症例

腎臓内科

吉井隆一 梶原健吾 三浦 玲 尾上友朗 藤本歌織
富田正郎

I-4 特発性血小板減少性紫斑病 (ITP) 治療中に心内血栓を形成し脳梗塞をきたした1例

神経内科

野村隼也 三浦正智 山本文夫 田北智裕

I-5 尿管原発転移性膵癌の1例

消化器内科

西澤秀和 柚留木秀人 本原利彦 二口俊樹 市川 亮
松野健司 本原利彦 石井将太郎 中田成紀 杉 和洋

I-6 上腸間膜動脈症候群に併存した胃潰瘍の1例

消化器内科

原 淑大 川副健太郎 石井将太郎 杉 和洋 中田成紀
松山太一 本原利彦 松野健司 柚留木秀人 市川 亮
二口俊樹

I-7 妊娠中に1型糖尿病を発症した1例

糖尿病・内分泌内科

坂本和香奈 大津可絵 小野恵子 豊永哲至 西川武志

I-8 心肺停止にて搬送された劇症型心筋炎の一例

循環器内科

永松 優

一般演題Ⅱ 「メディカル・スタッフ部門」

10:25~11:15

Ⅱ-1 安全で安心な嚥下調整食の提供を目指して

栄養管理室 福田彩加 米倉貴子 山田奈津美 池田かおり 関塚 結
北村 渚 松永直子
リハビリテーション科 西山真倫子 鶴田紫央里
国立病院機構嬉野医療センター 栄養管理室 大野仁美

Ⅱ-2 脳梗塞を契機に心エコー図検査にて左室心尖部血栓を指摘でき経過を追えた1症例

臨床検査科 小村 綾 中川麻里 野田千春 吉田順子 福田生恵
松元亜由美 佐々智子 竹内保統 永田栄二

Ⅱ-3 造影CT検査における上肢拳上方法の検討

診療放射線科 中村空也 阿萬貴史 北口貴教 丸山裕稔 古川則行

Ⅱ-4 AEDの自動解析で除細動不要の診断をしたVTの一例

救命救急科 臨床工学技士 北川 哉 佐藤朋哉 竹本勇介 新木信裕 田代博崇

Ⅱ-5 広範囲の脳梗塞により意識障害、複数の高次脳機能障害を呈した症例への経口摂取獲得へ向けた取り組み

リハビリテーション科 言語聴覚士 鶴田紫央里 西山真倫子

一般演題Ⅲ 「事務・薬剤・その他の部門」

11:20~12:00

Ⅲ-1 医療を提供するために必要な「モノ」の値段

事務部企画課契約 佐伯勇輔 石橋憲一郎 秦 幸一

Ⅲ-2 熊本医療センターにおける転院調整の課題～身体合併症を有する精神疾患患者のケースから

地域医療連携室 医療社会事業専門員 新開貴夫 木下良子 荒木陽子 三浦由江 安藤秀陞 立花律子
地域医療連携室係長 田中富美子

Ⅲ-3 ドクター秘書の人材育成における教育体制の構築に向けて

統括診療部 ドクター秘書 山下直美 宮本雅子 原 向見
総合情報センター 園田美樹
副院長 片渕 茂

Ⅲ-4 処方カレンダー導入前後のインシデント解析と今後の課題について

薬剤部 水町純一 川崎恵美 桑原貴美子 山形真一 幸 邦憲
中川義浩

昼食 (12:00~13:00)

一般演題Ⅳ 「外科系部門」

13:00~14:00

Ⅳ-1 肋骨骨折に続発した外傷性胸部大動脈損傷の1例

外科 森永剛司 中尾陽佑 宮成信友 山尾宣暢 杉原栄孝
 澤山 浩 岩上志朗 水元孝郎 久保田竜生 芳賀克夫
 片渕 茂

Ⅳ-2 破裂巨大肝嚢胞に対して腹腔鏡下肝嚢胞開窓術を施行した1例

外科 木下翔太郎 杉原栄孝 宮成信友 中尾陽佑 山尾宣暢
 澤山 浩 岩上志朗 水元孝郎 久保田竜生 芳賀克夫
 片渕 茂

Ⅳ-3 Advanced thymomaからの出血による心タンポナーデショックの一例

心臓血管外科 田中睦郎 岡本 実
 臨床研究部 芳賀克夫
 病理診断科 村山寿彦

Ⅳ-4 自転車が加害した重症頭部外傷の2症例

脳神経外科 松崎啓亮 岩崎伊代 甲斐恵太郎 坪田誠之 大塚忠弘

Ⅳ-5 当科における外傷性股関節脱臼骨折の治療経験

整形外科 浦田泰弘 平井奉博

Ⅳ-6 当院でのPICO創傷治療システムの使用経験

形成外科 加来知恵美 東野哲志 大島秀男

一般演題Ⅴ 「看護・教育部門」

14:05~14:55

Ⅴ-1 当院における作業療法の現状－2013年度と2014年度の実施状況の比較から

摂食・嚥下障害看護認定看護師 田平佳苗

Ⅴ-2 患者自身による意思決定を支援するための関わり－倫理ケースカンファレンスを通して－

7階東病棟 前田有希

Ⅴ-3 急性期病院の緩和ケアに対するコミュニケーション学習－シミュレーションを取り入れた効果－

7階北病棟 樋口 綾 別府真里子 知識美幸 池田としえ

Ⅴ-4 集中ケアを必要とする重症患者に実践したミスト洗顔の有効性

集中ケア認定看護師 前川友成

Ⅴ-5 患者急変時における看護学生3年次の看護アセスメントの実際

附属看護学校 一柳明日香 大道真理 荒川直子

一般演題VI 「救急・その他の診療科部門」

15:00~16:20

VI-1 過量服薬からCPAとなったが社会復帰した一例

救急部 山下幾太郎 江良 正 狩野巨平 山田 周 櫻井聖大
北田真己 原田正公 橋本 聡 木村文彦 高橋 毅

VI-2 当院における脳死ドナーからの臓器摘出時の麻酔科医の役割と対応～県内初の症例を経験して～

麻酔科 前原 遼 瀧賢一郎
熊本市立熊本市民病院 麻酔科 樋口拓志

VI-3 多関節炎で発症した間質性肺炎合併若年性皮膚筋炎の1例

小児科 水上智之 緒方美佳 並河 紳 森永信吾 高木一孝
皮膚科 工藤恵理奈 牧野公治
熊本大学附属病院 小児科 鋤田直美

VI-4 当科における化膿性汗腺炎の症例、特に「もどし植皮」を行った4症例の検討

皮膚科 牧野公治 青井 淳 本多教稔 西 葉月 工藤恵理奈

VI-5 当科にて経験した周術期の肺血栓塞栓症15例の検討

産婦人科 西村 弘 山本 直 鄭 俊明 山本文子 高木みか
大西義孝 三森寛幸

VI-6 肉腫様腎細胞癌の一例

泌尿器科 銘苅晋吾 菊川浩明 陣内良映 前田喜寛 二口芳樹
鮫島智洋 上園英太

VI-7 メトトレキサート関連リンパ増殖性疾患が口腔内に発現した1例

歯科・歯科口腔外科 朴 真実 谷口広祐 折田 剛 中川文雄 内藤久貴
中島 健

VI-8 強化型在宅療法支援診療所「おびやま在宅クリニック」の診療実績からみた医療連携の課題

おびやま在宅クリニック 田代清美 嶋村真由美 宮崎久義

総評・閉会の辞

16:20~ 16:30

平成27年度 第2回開放型病院運営協議会が開催されました

第2回開放型病院連絡会は、平成28年2月27日（土）に決定しました！

12月8日（火）、当院会議室にて今年度第2回目の開放型病院運営協議会が開催されました。協議会には、外部委員の熊本市医師会会長の福島敬祐先生（当協議会委員長）、同医師会副会長の園田 寛先生、同医師会理事の田中英一先生、家村昭日朗先生の4名にご出席いただきました。河野院長の開会挨拶、福島委員長のご挨拶に続き議事に入りました。議事は事務局より地区別登録医数、開放型病院共同指導実績、くまびょうニュースの発行状況についての報告がありました。続いて開放型病院連絡会の開催について協議が行われました。その結果、平成27年度第2回開放型病院連絡会を、平成28年2月27日（土）午後6時30分より、当院地域医療研修センターホールにて開催することを決定しました。第2回開放型病院連絡会は、総会と特別講演の2部構成となっています。総会では、症例呈示、地域医療連携室及び紹介予約センターからのお知らせを予定しています。総会終了後、引き続き特別講演を行います。特別講演は、「最近の医療行政」をテーマに、厚生労働省医政局総務課の保健医療技術調整官、町田宗仁先生にご講演を頂きます。

この連絡会を機に地域の医療機関の皆さまと益々の連携強化を図りたいと考えています。どうぞ医師、コメディカルスタッフ、看護師、MSW、事務職他多くの皆さまのご参加を賜りますようお願い申し上げます。（管理課長 清水就人）



開放型病院運営協議会の様子

第40回 開放型病院連絡会のご案内

日時：平成28年2月27日（土） 午後6時30分
場所：地域医療研修センターホール（当院2F）

－内容－

- 1 症例提示
- 2 地域医療連携室からのお知らせ
- 3 紹介予約センターからのお知らせ
- 4 特別講演

厚生労働省医政局総務課保健医療技術調整官
町田 宗仁 先生

【参加申込み先】

国立病院機構熊本医療センター管理課
電話 096-353-6501 内線2311(清水・今村)

平成27年度 地域医療支援病院運営委員会が開催されました

平成27年度の国立病院機構熊本医療センター地域医療支援病院運営委員会が平成27年12月1日（火）16時より当センター会議室にて開催されました。協議会には委員長の熊本市医師会会長 福島敬祐先生をはじめ、熊本市歯科医師会会長 宮本格尚先生、熊本市薬剤師会会長 村瀬元治先生、熊本県健康福祉部健康局長 山内信吾様、熊本大学附属病院地域医療支援センター長 松井邦彦先生の方々にご出席いただきました。

河野院長、福島委員長のご挨拶の後、事務局より①紹介率・逆紹介率の実績、②共同指導の実績、③救急医療の提供実績、④地域の医療従事者の資質向上を図るための研修実績などについて報告がありました。

地域医療支援病院として承認を受け、13年目を迎えました。昨年、承認要件の見直しがありました紹介率も要件を満たして推移しております。これも一重に開



地域医療支援病院運営委員会の様子

放型病院登録医の先生方をはじめ、当院を信頼して患者様をご紹介して下さる先生方のおかげと深く感謝申し上げます。今後ともご指導の程、よろしくお願い申し上げます。（経営企画室長 石井竜男）

南カリフォルニア大学病院 ジェフリー・ヘーゲン先生の研修を終えて

国立病院機構熊本医療センター研修医2年目の前原遼と申します。研修医生活も残すところ約3か月となりましたが、より一層身を引き締めて研修に邁進する所存です。

今年も12月7日から11日までの5日間、米国南カリフォルニア大学で副院長をされていますJeffrey A. Hagen先生が来院されました。Hagen先生は、消化器外科医として、世界的な大家であります。

私たち研修医は、今まで経験した症例報告と病棟回診を英語でプレゼンテーションしました。症例についての議論はもちろんですが、国際的な症例報告の方法や英語ならではの表現などについても詳しくご教授いただきました。

ヘーゲン先生より縫合の指導を受ける研修医



ヘーゲン先生と記念撮影

その他にも“アカデミック・サーજャンの毎日”、“米国における食道癌手術の現況”という題目の講演会や縫合実習なども開催いただきました。外科系を志す私としては、この上なく貴重な経験となりました。交流会にもお越しいただき、英語を通じて楽しい時間を過ごすことができました。

5日間という短い期間の中で数多くのことを経験し、学ぶことができました。最後になりましたが、この場を借りて、今回の研修にご尽力いただきました先生方に心より感謝申し上げます。

(2年次研修医 前原 遼)

救急看護エキスパートナース研修が行われました

2015年12月7日から12月11日の5日間、国立病院機構九州グループ主催の救急看護エキスパートナース研修が開催されました。

救急看護に関する知識の向上を目的に、フィジカルアセスメントやメンタルアセスメント、救急医療の講義が行われました。その後、学んだ内容を参考に、受講生が経験した実症例をグループディスカッションし、再現した内容のシミュレーションを行いました。課題別研修として、自施設で学んだことをどう活かすかグループワークを行い、まとめを発表しました。



救命病棟で実践されている看護を見学



シミュレーターを用いて学ぶフィジカルアセスメントの基礎

また、講義とは別に初日に意見交換会を行い、食事をしながら各施設での取り組みや問題点を語り合い情報を共有しました。

高齢化や救急医療の高度化に伴い、救急看護のニーズは多様化しています。そのニーズに合わせた人材育成が必要とされています。今回の救急看護エキスパートナース研修はその一端を担っています。受講生の皆様には各施設に戻り、地域医療における救急看護の質向上に努めてほしいものです。

(救急看護認定看護師 甲斐 彰)

研修医レポート

臨床研修医

かわぐち

川口 ゆかり



こんにちは。研修医1年目の川口ゆかりと申します。熊本出身で、今年3月に久留米大学医学部を卒業し、4月より熊本医療センターで初期臨床研修として働かせていただいております。社会人になり、研修医として働き始め半年以上が経過していますが、まだまだ慣れないことが多く、たくさんの方々から助けられる日々を送っています。

研修については、麻酔科からスタートし、血液内科、救命救急部、糖尿病内分泌代謝内科で研修させていただきました。最初にローテートした麻酔科では、静脈ルート確保から気管挿管、腰椎穿刺などの多くの手技を経験することができ、また術中の全身管理や輸液管理、人工呼吸器などについて学生時代には学ぶ機会が

少なかった分野について学ぶことができました。

次の研修は血液内科を回りました。初めての内科、病棟業務でオーダーの入れ方すらわからない状況でしたが、指導医の先生はじめ多くの先生方、看護師さんに教えていただきながら一つ一つ学んでいきました。救命では、病棟と外来1か月ずつでしたが、特に外来では夜勤でもやっていますが、救急車からのファーストタッチを行い、問診・診察を行いどのような鑑別をするために必要な検査をオーダーしていくかを考える機会となりました。

現在は、糖尿病内分泌代謝内科で研修しております。糖尿病の血糖コントロール、内分泌異常や電解質異常の治療を中心に学びました。特に糖尿病や電解質異常はどの科においても必ず遭遇するもので、将来どこに進もうがしっかり知識を持っておかねばならない重要な分野であり、大変勉強になりました。

気づけば研修1年目もあと少しで終えようとしています。自分は本当に成長しているのだろうかと不安になることもあります。周りの素晴らしい先生方、コメディカルの方、同期に支えられ、充実した研修生活を送っています。今後もご迷惑をお掛けすることが多々あると思いますが、何卒宜しくお願いします。

臨床研修医

はら よしひろ

原 淑大



こんにちは。研修医1年目の原淑大と申します。4月から始まった臨床研修も早いもので半年を過ぎ、8ヶ月が経過しようとしています。だいぶ日々の診察や、業務にも慣れてきて充実した研修生活になってきている反面で、目の前のことをこなすだけで精一杯だった研修当初とは違い、自分で考え方針を決めていくためにはまだまだ知識が足りないと感じているところがあります。

今までの研修では、神経内科から始まり麻酔科、呼吸器内科、救命救急部といった流れで研修をさせていただきました。神経内科では、急性期を扱う病院であるため脳梗塞や髄膜炎など緊急を要する疾患を多く見ることができました。カルテの使い方や業務の流れな

どを覚えるだけで精一杯な時期で、次々と検査、処置、治療を行っていく指導医の先生をほぼ見ているだけでしたが、大変刺激になりました。次の麻酔科ではルートの確保や、マスク換気、気管挿管など基本的な手技を学ぶとともに、様々な手術に対する麻酔の流れ、全身管理の方法など幅広く教えていただきました。呼吸器内科では、肺炎に対する抗菌薬の使用法や考え方、喘息・COPDに対する対処法、胸腔穿刺やドレーン留置などの手技をさせていただきました。また、肺がんに対する化学療法や緩和ケアに触れる機会もあり、実際にそういった患者さんを目の前にし、対応の仕方などを考えさせられる経験をさせていただきました。

救命救急部では、病棟では様々な疾患、軽症から重症の患者さんまで幅広く学ばせていただきました。これから、また別の科を研修していく中で、いろいろとご迷惑をかけるとは思いますが、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

研修のご案内

第204回 月曜会（無料）

（内科症例検討会）

〔日本医師会生涯教育講座1.5単位認定〕

日時▶平成28年1月18日(月)19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

1. 内科基礎講座 診療で遭遇した興味ある症例の検討を行います。

「第1症例 循環器内科からの症例」

国立病院機構熊本医療センター循環器内科部長

藤本和輝

「第2症例 骨髄腫の症例から」

国立病院機構熊本医療センター血液内科医長

原田奈穂子

2. ミニレクチャー「急性脳梗塞における画像診断の有用性」

国立病院機構熊本医療センター神経内科

三浦正智

日頃、疑問の症例、興味のある症例、X線、心電図、その他がございましたら、ご持参いただきますようお願い致します。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター統括診療部長 清川 哲志 TEL:096-353-6501(代表) FAX:096-325-2519

第172回 三木会（無料）

（糖尿病、高脂血症、高血圧を語る会）

〔日本医師会生涯教育講座1.5単位認定〕

〔日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<2群>0.5単位認定〕

日時▶平成28年1月21日(木)19:00~20:45

場所▶国立病院機構熊本医療センター研修室2

1. 「周期性嘔吐症を合併した2型糖尿病患者の治療法の検討」

国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科

川口ゆかり

2. 「妊娠糖尿病とvon Hippel-Lindau病の関係」

国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科部長

西川武志

なお、興味のある症例、疑問・質問のある症例がございましたら、お持ちいただきますようお願い致します。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科部長 西川 武志 TEL 096-353-6501(代表) 内線5441

第121回 総合症例検討会（無料）

〔日本医師会生涯教育講座1.5単位認定〕

日時▶平成28年1月27日(水)19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

テーマ：『両下肢の著明な浮腫』

(30歳代 女性)

臨床担当) 国立病院機構熊本医療センター呼吸器内科医長

名村 亮

病理担当) 国立病院機構熊本医療センター臨床研究部病理研究室長

村山寿彦

「下腿浮腫より前医で心不全が疑われて紹介入院となった。心エコーとBNP検査では心不全は認めなかった。」

※臨床経過の詳細な検討と鑑別診断を行います。最後に病理よりマクロ、ミクロの所見と剖検診断が解説されます。通常のレクチャー（解説）の前に、馴染みの少ない疾患、病態は、その分野に関するミニレクチャーを予定しております。基本的知識を学んだ後で活発なディスカッションをお願い致します。どなたもお気軽にご参加下さい。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501(代表) 内線2630 096-353-3515(直通)

第58回 症状・疾患別シリーズ（会員制）

〔日本医師会生涯教育講座2.5単位認定〕

日時▶平成28年1月30日(土)15:00~17:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

座長：天草都市医師会立天草地域医療センター総院長

植村正三郎 先生

演題：「めまい」

1. 耳鼻咽喉科的な視点から

国立病院機構熊本医療センター耳鼻咽喉科医長

上村尚樹

2. 神経内科的な視点から

国立病院機構熊本医療センター神経内科医長

田北智裕

3. 脳神経外科的な視点から

国立病院機構熊本医療センター脳神経外科医長

坪田誠之

この講座は有料で、年間10回を1シリーズ（年会費10,000円）として会費制で運営しています。但し、1回だけの参加を希望される場合は1回会費2,000円で参加いただけます。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局

TEL 096-353-6501(代表) 内線2630 096-353-3515(直通) FAX 096-352-5025(直通)

2016年

研修日程表

1月

国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

1月	研修センターホール	研 修 室
4日(月)		
5日(火)		
6日(水)		
7日(木)	7:30~8:15 二の丸モーニングセミナー 「緩和医療」 国立病院機構熊本医療センター腫瘍内科医長 榮 達智	
8日(金)		
9日(土)		16:00~18:00 熊本地区核医学技術懇話会(研2)
12日(火)		
13日(水)	18:00~19:30 第96回 国立病院機構熊本医療センター クリティカルバス研究会(公開)	
14日(木)	7:30~8:15 二の丸モーニングセミナー 「急性腎障害の治療」 国立病院機構熊本医療センター腎臓内科部長 富田正郎 14:00~15:00 第34回 市民公開講座 「食物アレルギーについて」 国立病院機構熊本医療センター小児科 緒方美佳	
15日(金)		15:30~16:45 肝臓病教室(研2) 「肝がんについて」
16日(土)	8:50~ 第21回 国立病院機構熊本医療センター医学会	
18日(月)	19:00~20:30 第204回 月曜会(内科症例検討会) [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定]	
19日(火)	19:30~20:30 第44回 熊本摂食・嚥下リハビリテーション研究会 「栄養障害と摂食嚥下障害」 玉名地域保健医療センター管理栄養士 濱崎かおり 熊本リハビリテーション病院摂食嚥下障害認定看護師 城 仁美	
20日(水)		
21日(木)	7:30~8:15 二の丸モーニングセミナー 「脳梗塞の治療」 国立病院機構熊本医療センター神経内科 三浦正智	19:00~20:45 第172回 三木会(研2) (糖尿病、脂質異常症、高血圧を語る会) [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定] [日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<2群>0.5単位認定]
22日(金)	19:00~20:30 第38回 熊本がんフォーラム 「がん免疫療法とは」 ~効く免疫療法、効かない免疫療法~ 国立病院機構熊本医療センター腫瘍内科医長 山本春風	
25日(月)		
26日(火)	18:30~20:30 血液研究班月例会	19:00~21:00 小児科火曜会(研1)
27日(水)	19:00~20:30 第121回 総合症例検討会(CPC) [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定] 「両下肢の著明な浮腫」	
28日(木)	7:30~8:15 二の丸モーニングセミナー 「整形外科の救急疾患」 国立病院機構熊本医療センター整形外科医長 中馬東彦 18:30~20:00 熊本県臨床細胞学会 <細胞診月例会・症例検討会>	
29日(金)		
30日(土)	15:00~17:30 第58回 症状・疾患別シリーズ 「めまい」 [日本医師会生涯教育講座2.5単位認定] 座長 天草郡市医師会立天草地域医療センター 総院長 植村正三郎 1. 耳鼻咽喉科的な視点から 国立病院機構熊本医療センター耳鼻咽喉科医長 上村尚樹 2. 神経内科的な視点から 国立病院機構熊本医療センター神経内科医長 田北智裕 3. 脳神経外科的な視点から 国立病院機構熊本医療センター脳神経外科医長 坪田誠之	

研1~3 2階研修室1~3

※二の丸モーニングセミナーにつきまして、詳細はホームページ(<http://www.nho-kumamoto.jp/>)をご参照ください。

問い合わせ先 〒860-0008 熊本市中央区二の丸1番5号 国立病院機構熊本医療センター2階 地域医療研修センター TEL 096-353-6501(代) 内線2630 096-353-3515(直通)